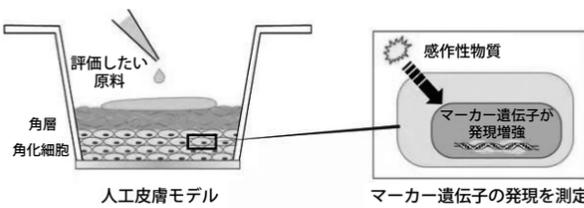


花王 EpiSensaAがOECD テストガイドラインに収載

花王が開発した皮膚感作(アレルギー)性試験代替法「EpiSensaA (EpiSensa II Epidermal Sensitization Assay)」が、2024年6月25日、公的試験法として世界的に合意されているOECDテストガイドラインに収載された。

「EpiSensaA」は、既存代替試験法の課題であった油性原料を、世界で初めての収載となる。同ガイドラインに収載されている花王の皮膚感作性試験代替法は、2016年に資生堂と共同開発した「h-CLAT」に続く2つ目となる。

また花王は、この技術の普及を目的とし、単独で権利化している「EpiSensaA」の基盤技術に関する特許(日本国特許第6031221号)を2024年8月末までに放棄することを決定した。これにより「EpiSensaA」は、今後、日本国内を含む全世界で広く使用可能な



図：EpiSensaAの試験イメージ

「EpiSensaA」は、感作成立の際に角化細胞で生じる酸化応答・炎症応答に着目し、人工皮膚モデルに評価したい原料を塗布した際のマーカー遺伝子の発現応答から皮膚感作性を判定する。既存代替試験法では、評価したい原料を培地(水溶液)に溶かす必要があったため、油性原料は評価できないことが課題だった。この課題を克服するために、2011年より人工皮膚モデルを用いる次世代型の代替試験法として「EpiSensaA」の開発を進めてきた。

「EpiSensaA」は、実際の皮膚と類似の構造を有することから、原料を皮膚に塗布する場合と同じように評価することが可能だ。既存代替試験法の課題であった油性原料の評価も可能となり、産業界の新規化学物質の開発に大きく貢献することが期待されている。

コーセー iPS細胞用いた美容商品提供の 実証実験を8月から開始

コーセーは、アイ・ピース、レジュと共同で、顧客自身のiPS細胞からの抽出成分「iPSF」を配合したパーソナライズ美容商品の提供に向けた実証実験を、医療法人社団優恵会の運営する「銀座よしえクリニック」を通じて2024年8月から年間30人の顧客を対象に開始する。

この取り組みは、顧客の取り組むは、顧客が提供されたiPS細胞抽出成分を配合したパーソナライズ美容商品を提供することを目指す。今回、コーセー・アイ・ピース、レジュはパーソナライズ美容商品や関連するサービスの提供について、医療法人社団優恵会と業務提携契約を締結した。

同法人は皮膚科・美容皮膚科を中心とする「銀座よしえクリニック」を首都圏に7院構えており、再生医療を応用した美容医療分野に積極的に取り組んでいる。

厚生労働省の認可を得た技術力の高い細胞培養加工施設をグループ内に有し、細胞治療やPRP(多血小板血漿療法)といった再生医療メニューの提供で国内トップレベルの実績を誇る。このように美容皮膚科における再生医療領域では日本を代表するクリニックの一つであることから、実証実験にてiPS細胞抽出

成分「iPSF」の安全管理、有効性を評価するパートナーとして選定されるに至った。美容商品の提供のためには、顧客自身のiPS細胞を作製するため、「銀座よしえクリニック」にて顧客の血液を採取する必要がある。その血液に含まれる体細胞から技術提携先であるアイ・ピースにて顧客自身のiPS細胞を作製する。このiPS細胞を用いて、アイ・ピースと技術提携を

この一連の血液採取から「iPSF」の製造におよそ1年の期間を要する。一方、コーセーからは使い心地などをパーソナライズするための製剤を開発し、クリニックへの提供を行う。その後、クリニックにて「iPSF」と製剤の調合が行われ、顧客にとって「わたしの美容商品」が完成する。

記者の窓

福岡県に拠点を置くゲンキードラッグは通常のドラッグストアとは違う道を歩む。一般的に食品の低価格訴求によって、調剤を含めた医薬品と化粧品は接客販売で収益を確保する。ゲンキードラッグは併設は1店もなく、医薬品・化粧品の接客販売は一切、行わない。医薬品・化粧品を強化

通常のドラッグと 違う道を

通常のドラッグストアは品強化型は成立しない。代わって、購買頻度の高い食品をはじめとした消耗品をロープライスで提供し、高頻度を指標とする。ドラッグストアの競争が激化する。この地方はますます都市部との格差が広がり、生活が厳しくなることを想定し、生活費を節約する店を志す。ドラッグストア

品強化型は成立しない。代わって、購買頻度の高い食品をはじめとした消耗品をロープライスで提供し、高頻度を指標とする。ドラッグストアの競争が激化する。この地方はますます都市部との格差が広がり、生活が厳しくなることを想定し、生活費を節約する店を志す。ドラッグストア

「EpiSensaA」の開発を進めてきた。「EpiSensaA」は、実際の皮膚と類似の構造を有することから、原料を皮膚に塗布する場合と同じように評価することが可能だ。既存代替試験法の課題であった油性原料の評価も可能となり、産業界の新規化学物質の開発に大きく貢献することが期待されている。

「EpiSensaA」は、感作成立の際に角化細胞で生じる酸化応答・炎症応答に着目し、人工皮膚モデルに評価したい原料を塗布した際のマーカー遺伝子の発現応答から皮膚感作性を判定する。既存代替試験法では、評価したい原料を培地(水溶液)に溶かす必要があったため、油性原料は評価できないことが課題だった。この課題を克服するために、2011年より人工皮膚モデルを用いる次世代型の代替試験法として「EpiSensaA」の開発を進めてきた。

「EpiSensaA」は、実際の皮膚と類似の構造を有することから、原料を皮膚に塗布する場合と同じように評価することが可能だ。既存代替試験法の課題であった油性原料の評価も可能となり、産業界の新規化学物質の開発に大きく貢献することが期待されている。

「EpiSensaA」は、感作成立の際に角化細胞で生じる酸化応答・炎症応答に着目し、人工皮膚モデルに評価したい原料を塗布した際のマーカー遺伝子の発現応答から皮膚感作性を判定する。既存代替試験法では、評価したい原料を培地(水溶液)に溶かす必要があったため、油性原料は評価できないことが課題だった。この課題を克服するために、2011年より人工皮膚モデルを用いる次世代型の代替試験法として「EpiSensaA」の開発を進めてきた。

「EpiSensaA」は、実際の皮膚と類似の構造を有することから、原料を皮膚に塗布する場合と同じように評価することが可能だ。既存代替試験法の課題であった油性原料の評価も可能となり、産業界の新規化学物質の開発に大きく貢献することが期待されている。